

「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」受賞企業紹介

第5回 「七十七ニュービジネス助成金」受賞企業（平成14年度）



代表取締役
佐藤 威氏

株式会社細胞科学研究所

住所 : 仙台市青葉区南吉成6丁目6番地の3
設立年 : 平成13年
業種 : 医療系バイオ関連製品開発・製造
資本金 : 23百万円
従業員 : 4名

免疫療法や再生移植医療に不可欠な完全で高性能な無血清細胞培養液の開発に成功

事業の概要

当社は、東北大学抗酸菌病研究所（現加齢医学研究所）の細胞培養液開発技術を基に、免疫療法や再生移植医療に不可欠な安全で高性能な無血清細胞培養液の開発・製造・販売、および地域医療機関と連携した癌免疫療法や再生移植医療のための細胞受託培養を事業展開している。また、ヒト体外受精培養液の受託製造・販売および試験検査・バイオ医薬開発研究等に必要特殊培養液の製造等、安全な再生移植医療や遺伝子治療の実現に必要な細胞培養関連業務全般に関する幅広い事業を行っている。



受賞の理由



従来、リンパ球や皮膚・軟骨・血管などの細胞を培養する培養液には、人間や家畜の血清が使用されており、未知のウィルスや細菌に感染する危険性や品質管理が難しいなどの問題があった。当社はビタミンやアミノ酸等60種類以上にも及ぶ栄養成分の混合方法・保存方法・製品化技術に関するノウハウにより、ウィルス感染の危険性を払拭し、細胞増殖スピード向上につながる画期的な培養液を開発した。

これらの新開発の培養液は、構成成分が明らかなため性能が安定しており、免疫細胞療法以外にも、再生医療現場での培養皮膚・培養軟骨・造血細胞などの製造過程において、従来製品にはない優位性を発揮するなど幅広い分野での

活用が期待されている。

細胞受託培養については、癌免疫療法のためのリンパ球の受託培養を主とし、東北・北海道では宮城県癌センター研究所が試験的に行っているだけで民間では初の参入となる。地域医療機関とも連携し事業を進めるなど、癌患者の免疫療法普及に大きく貢献している点も高く評価できる。

細胞培養技術を習得している技術者は全国的にも数少なく、国内の主な培養液メーカーが製造している古典的な培養技術と比較し、新規性・独創性に溢れており、今後の事業拡大に大きな期待が持たれる。



[▶BACK](#)